

北海道大学留学生センター主催
第22回北海道大学国際本部留学生センター日本語教育ワークショップ

日本語教育の実践・研究のための統計知識
ー統計処理を研究法の一環として捉えるー

講師：松見 法男 氏（広島大学大学院教育学研究科教授）

学習者は、様々な言動を見せてくれます。その中に、学習過程の指標となるものがあり、それを計画的・体系的に追いかけることによって、教育の成果が見えてきます。講演では、皆さんの取り組みが「実践報告」、「調査報告」、「研究論文」としてまとまるように、心理学研究法に基づいた統計処理のお話をいたします。ワークショップでは、日々の指導や調査・観察等で得られた学習者の数量データ（テスト得点、評価点など）の活かし方を、「分散分析」を通して体験していただきます。「統計の知識って、ややこしいよね」という思いが、少しでも変われば幸いです。

記

と き： 平成24年3月10日（土） 10:00～16:30

※講演：10:00～11:30、

ワークショップ：前半 13:00～14:30、後半 15:00～16:30

※ワークショップではパソコンを使用しますが、持参する必要はありません。

ところ： 北海道大学国際本部留学生センターLL教室1（センター3F）

参加費： 無 料

※ 事前のお申し込みは必要ありません。当日会場へ直接お越しください。

お問い合わせ先：チョン ヘソン（北海道大学留学生センター）

jung@oia.hokudai.ac.jp, TEL：011-706-8011（直通）

oooooooooooo 講師プロフィール oooooooooooooo

松見 法男（まつみ のりお）

ドイツで海外子女教育に携わった後、広島大学大学院博士課程（教育心理学専攻）で、バイリンガル二重符号化理論に基づいた第二言語学習者の単語記憶過程に関する研究を行う。現在、同大学（日本語教育学講座）で「言語心理学」（学部）や「第二言語習得論特講・演習」（大学院）などを担当している。近年の研究テーマは、日本語学習者における心内辞書、文や文章の聴解・読解過程、シャドーイング・メカニズムの解明である。認知心理学アプローチにより、幼児から成人までを対象とした観察・調査・実験を行っている。

<著書> 「第二言語の語彙習得」海保博之・柏崎秀子 編著『日本語教育のための心理学』第6章（新曜社），など。